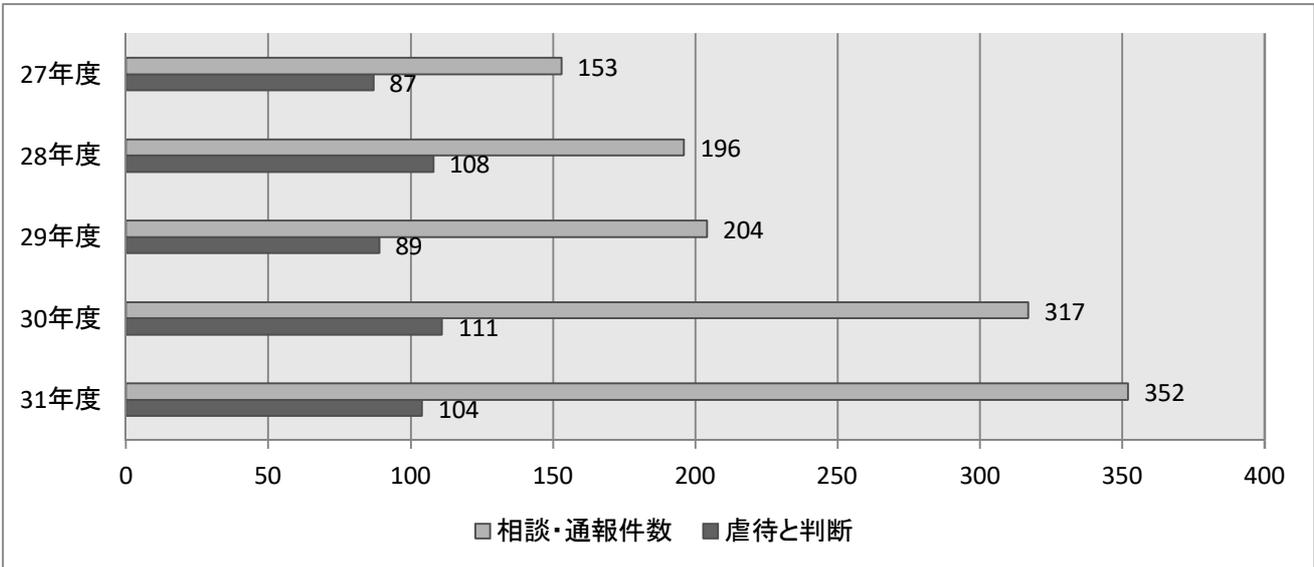


平成27年度～平成31年度(令和元年度)
 養護者による高齢者虐待に関する新潟市の状況(R2.3.31現在)

- ①相談・通報件数
- ②事実確認の結果「虐待」と判断した件数

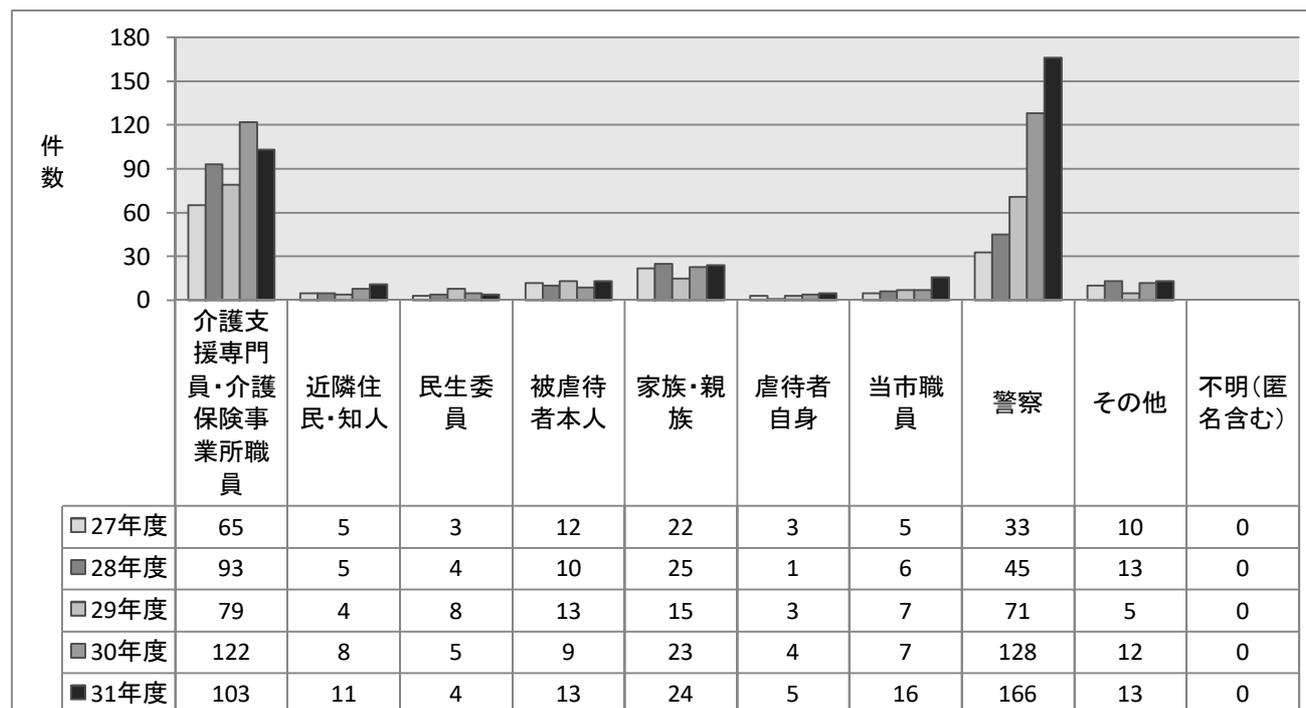


	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
相談・通報件数	153	196	204	317	352
虐待と判断した件数	87	108	89	111	104

- ・31年度の「相談・通報件数」は352件で、30年度より35件増加した。
- ・事実確認の結果、「虐待と判断した件数」は104件で、30年度より7件減少した。
- ・31年度末時点で、今後調査を予定または調査の要否を検討中のものが8件。

③虐待の相談・通報者(複数回答)

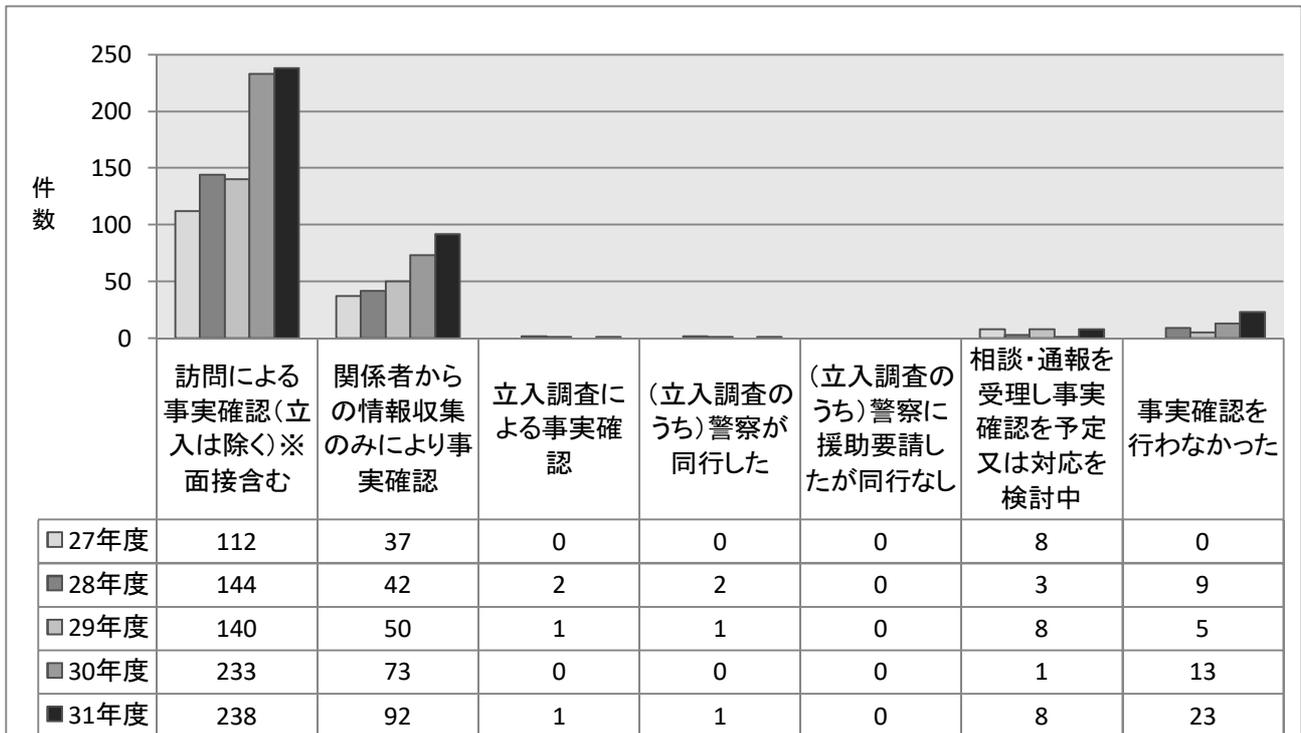
31年度n=355



- ・31年度は、「警察」からの相談が最も多く166件で46.8%、次いで「介護支援専門員・介護保険事業所職員」の103件で29.0%である(複数回答3件)。
- ・経年で見ると、「警察」からの相談・通報が年々増えている。
- ※「その他」とは、医師などの医療関係従事者、要介護認定調査の職員など。

④事実確認の状況

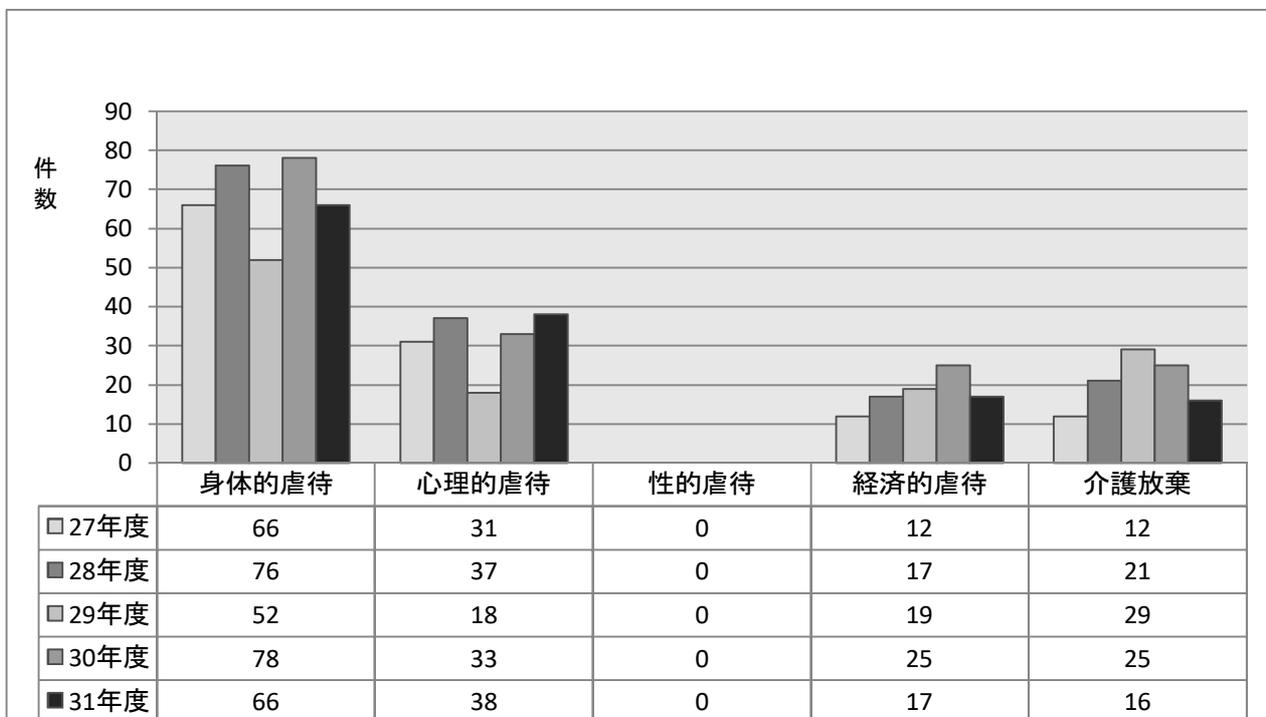
31年度n=362



・31年度全体の65.7%は、訪問により事実確認を行っている（年度跨ぎの10件を含む）。
 ※「関係者からの情報収集」とは、地区担当保健師、生活保護担当者、障がい者基幹相談支援センターなどから情報収集を行ったもの。

⑤虐待種別の内訳(複数回答)

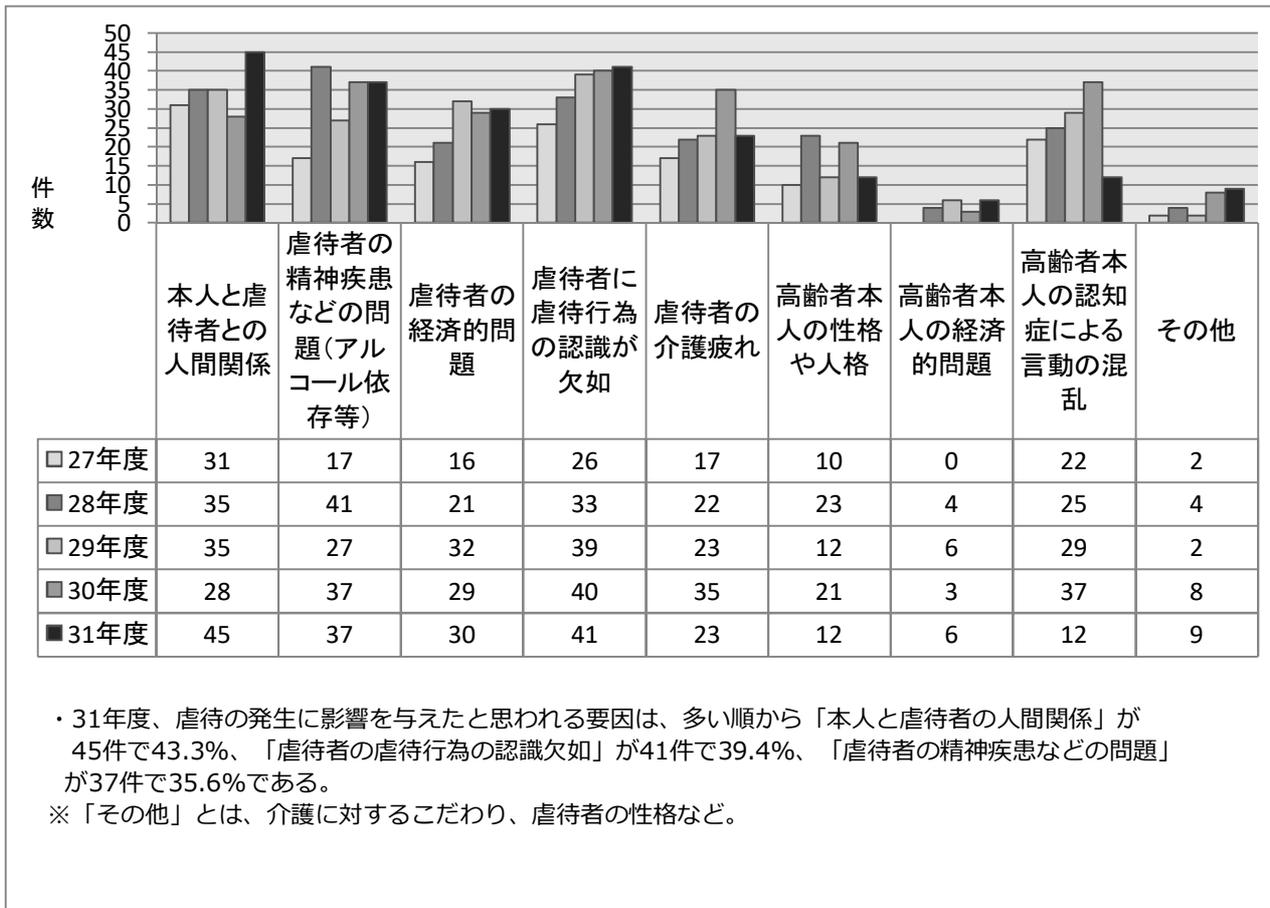
31年度n=104



・31年度、市全体では、多い順から「身体的虐待」が66件で63.5%、「心理的虐待」が38件で36.5%である。
 ・経年で見ても、「身体的虐待」の割合が最も多い。

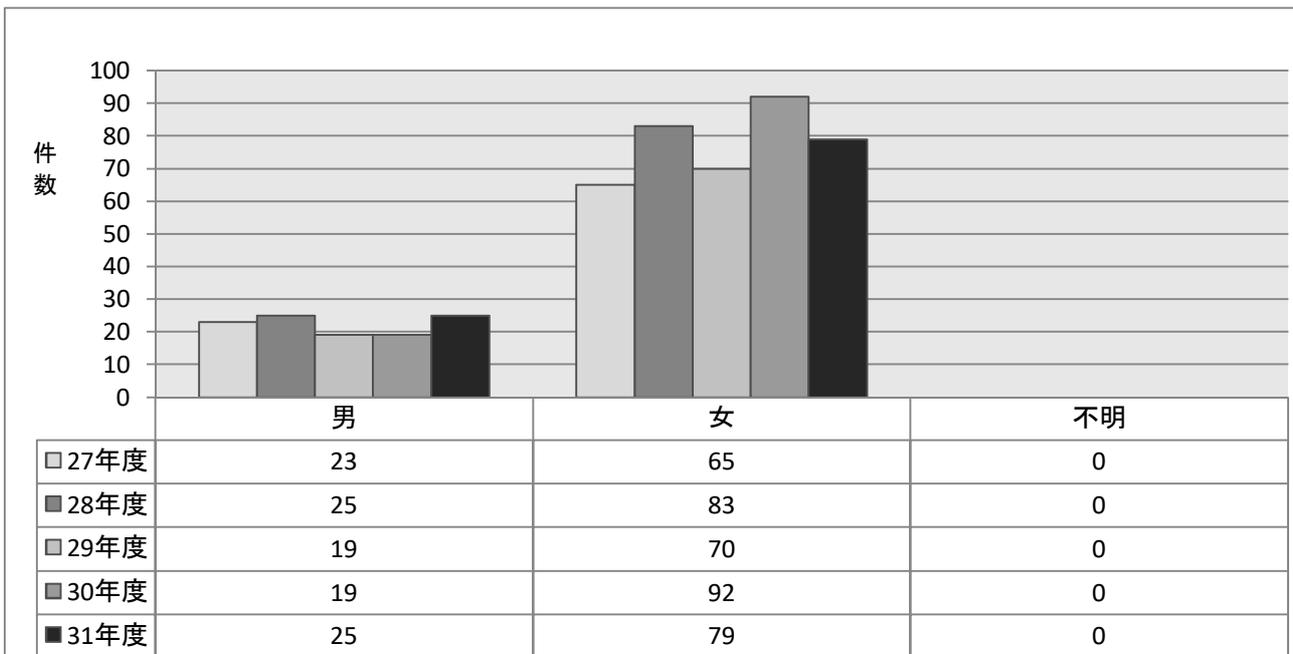
⑥虐待の発生に影響を与えたとと思われる要因(複数回答)

31年度n=104



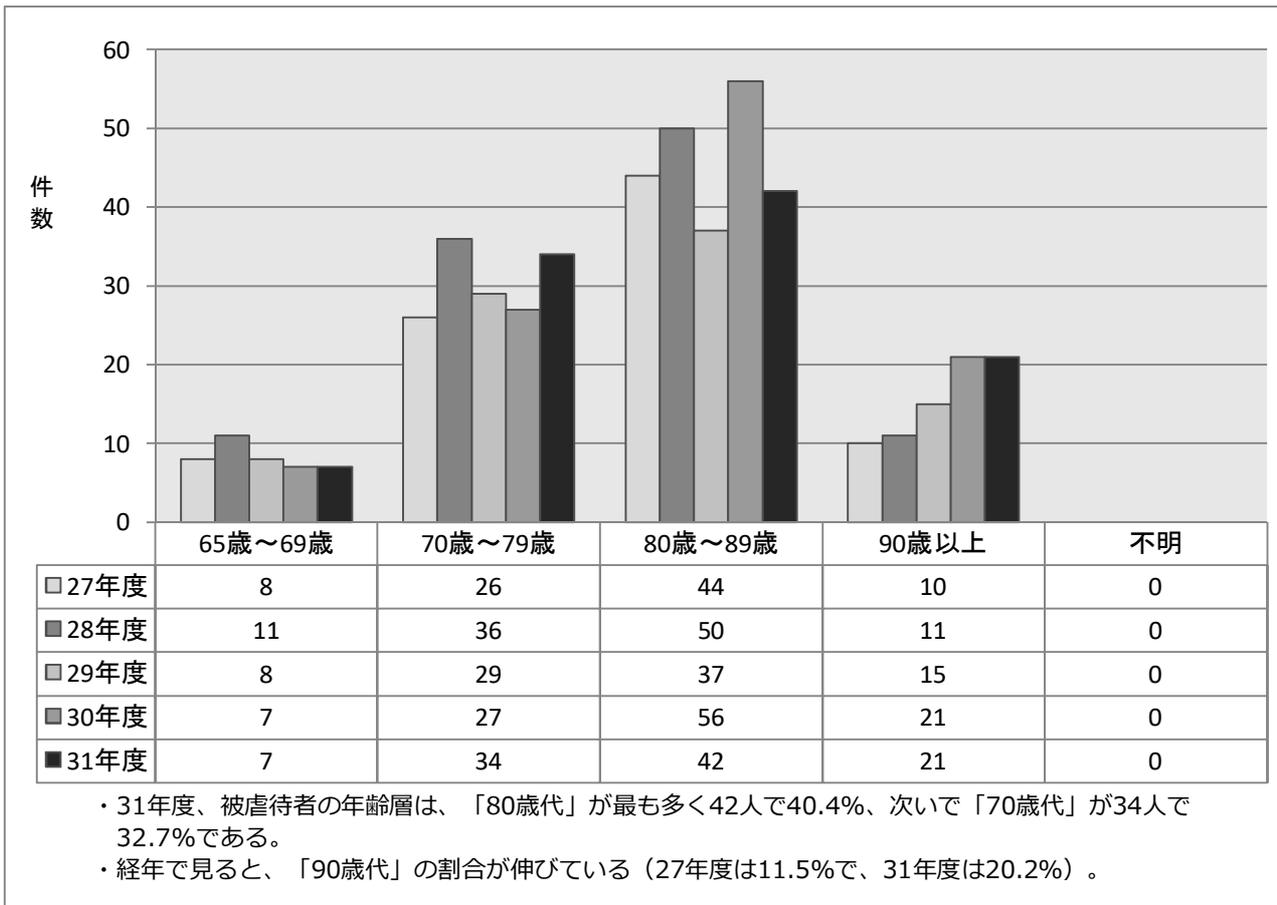
⑦被虐待者の性別

31年度n=104



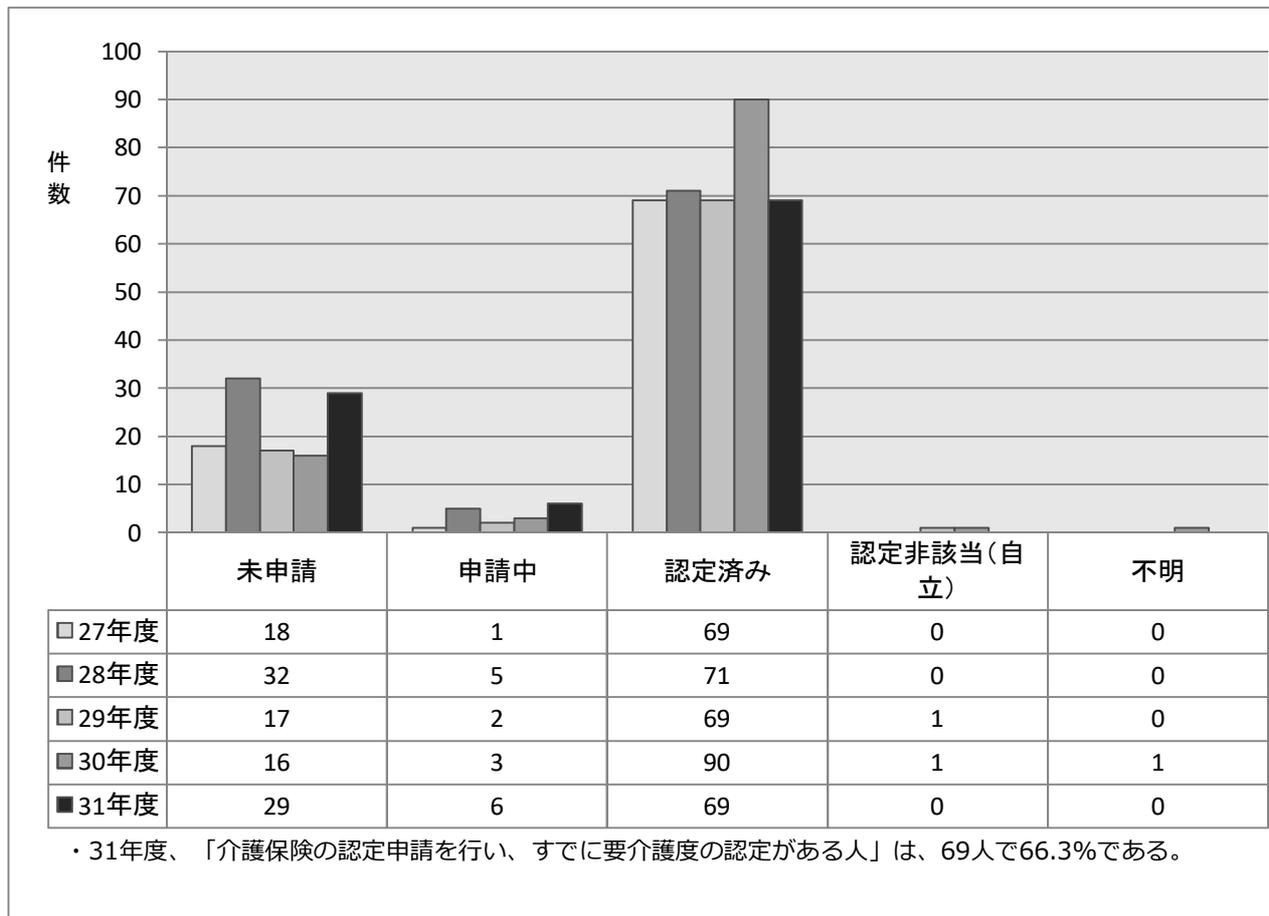
⑧被虐待者の年齢

31年度n=104



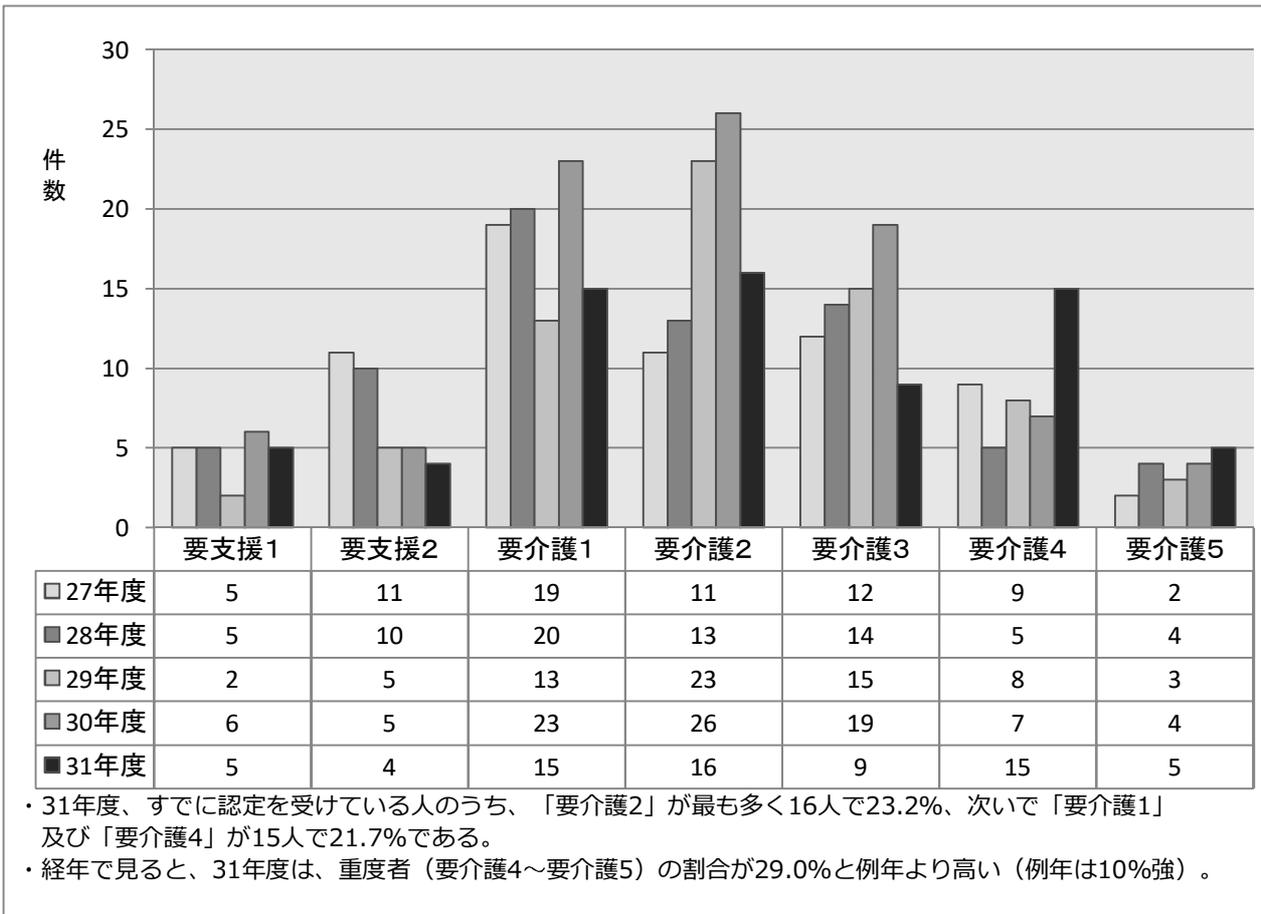
⑨被虐待者の要介護認定の有無

31年度n=104



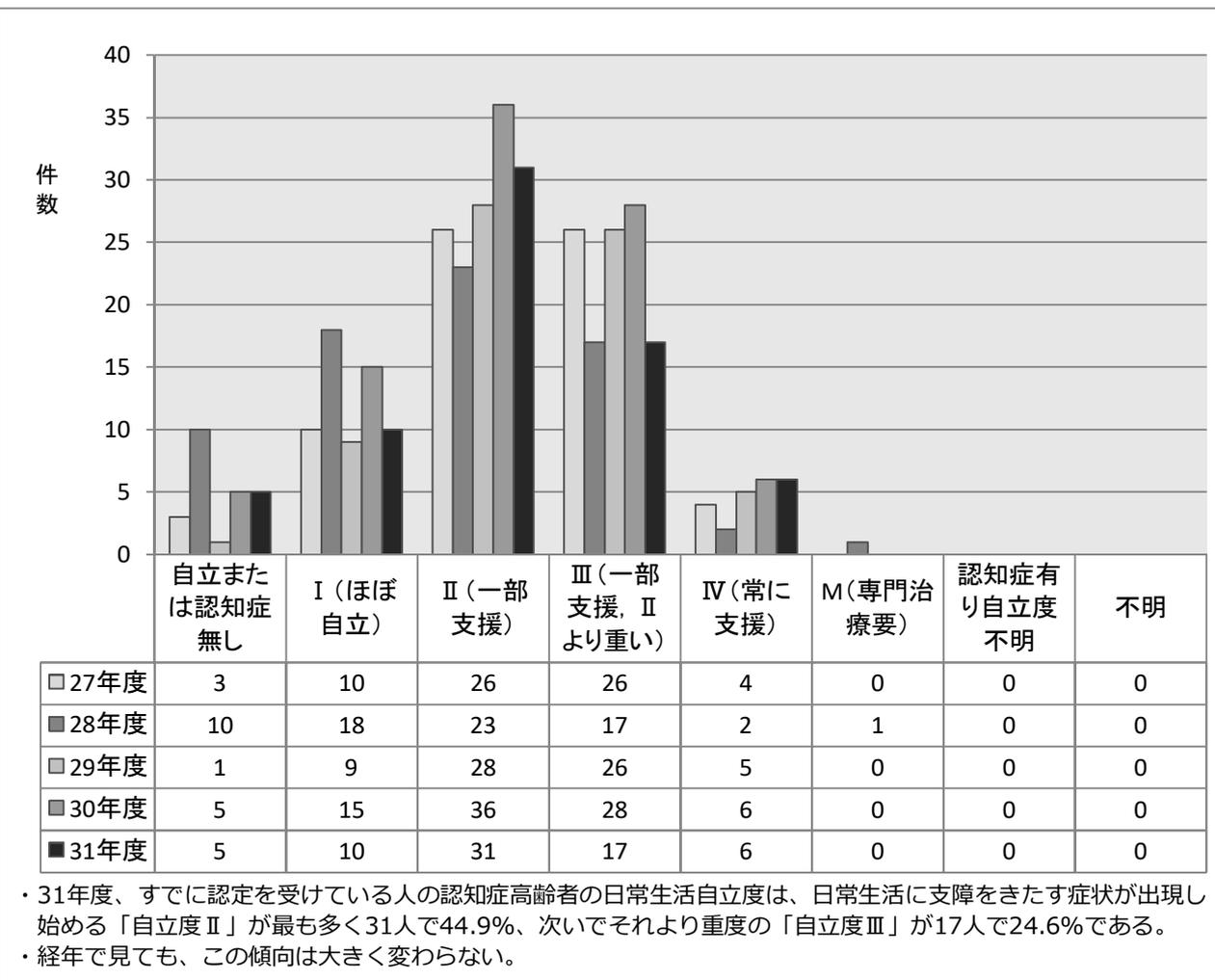
⑩被虐待者の要介護度

31年度n=69



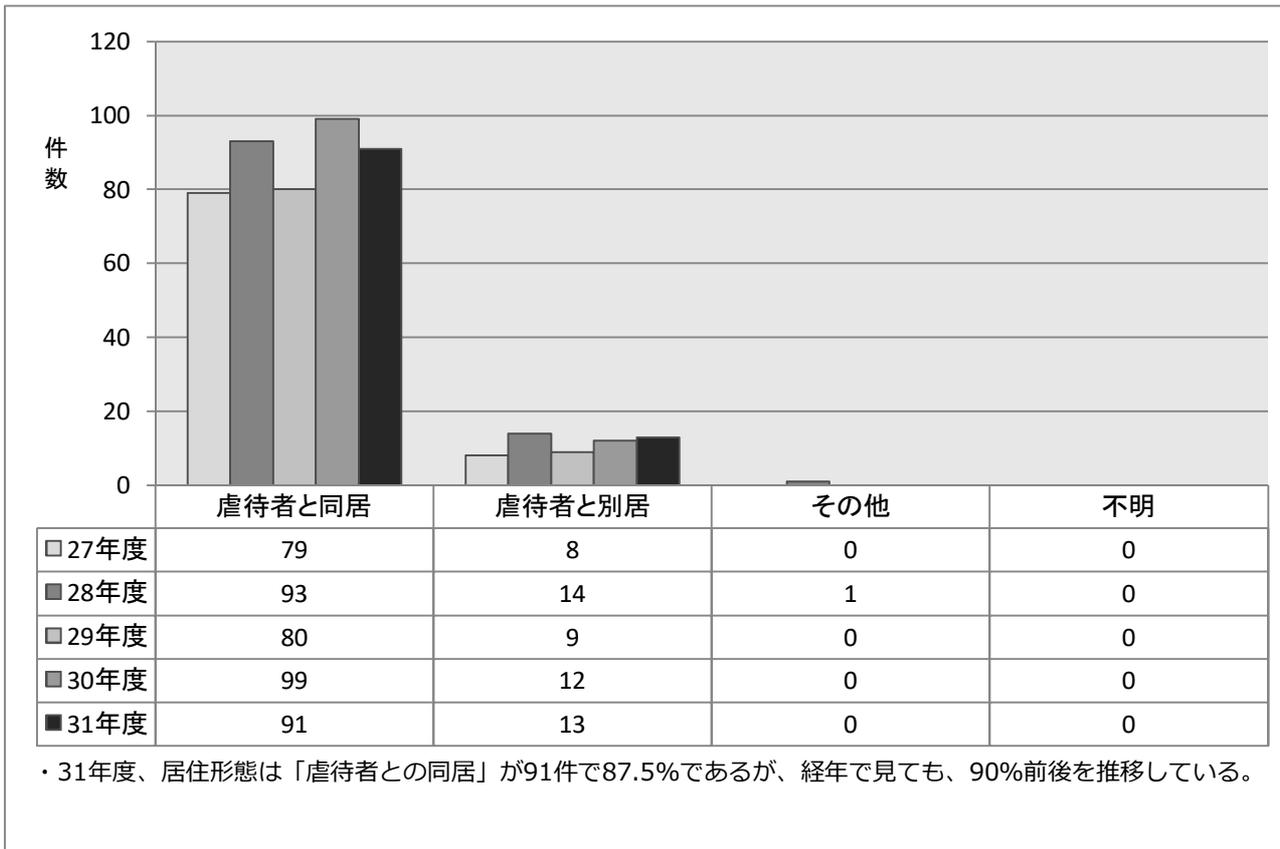
⑪被虐待者の認知症の有無

31年度n=69



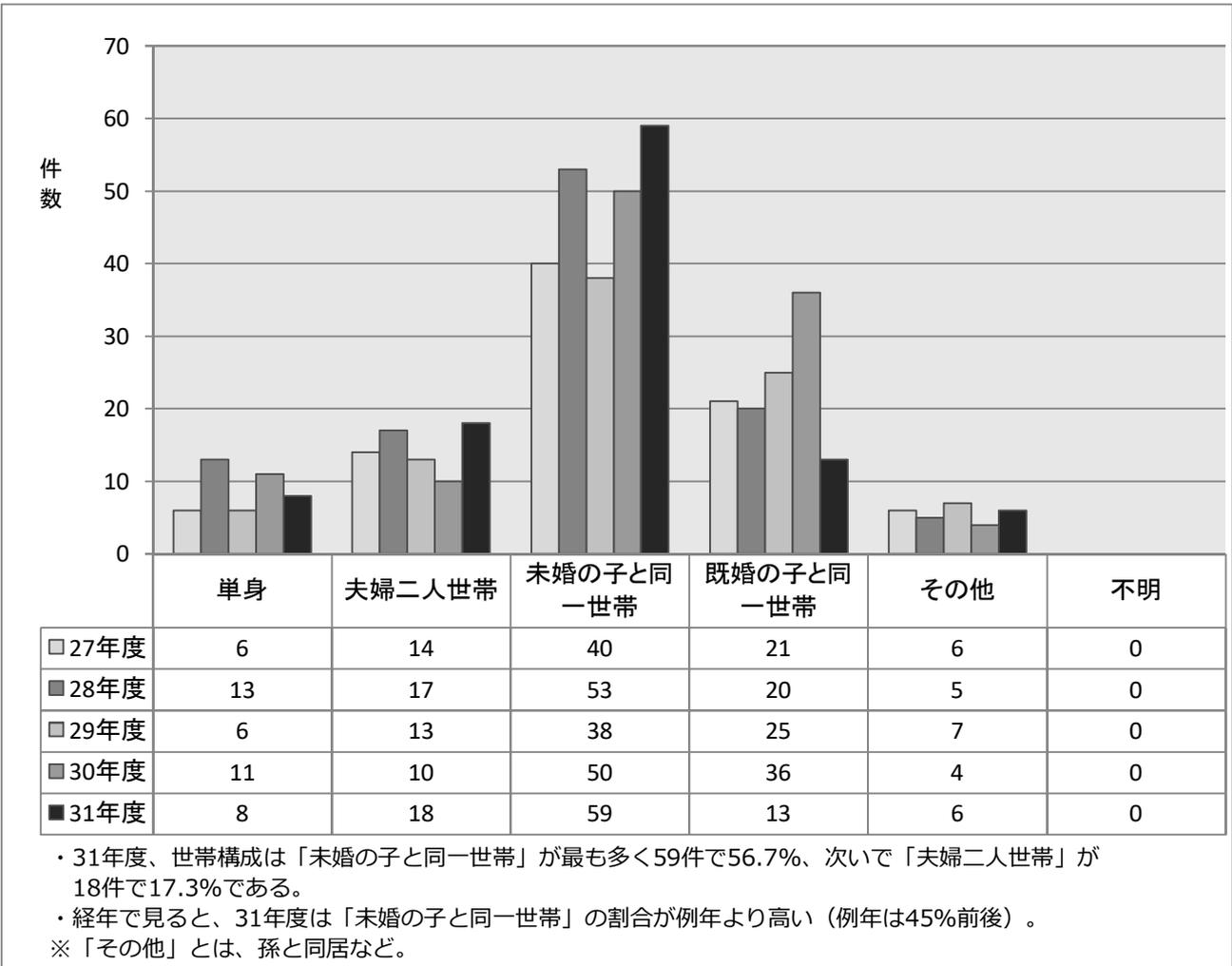
⑫虐待者との居住形態の内訳

31年度n=104



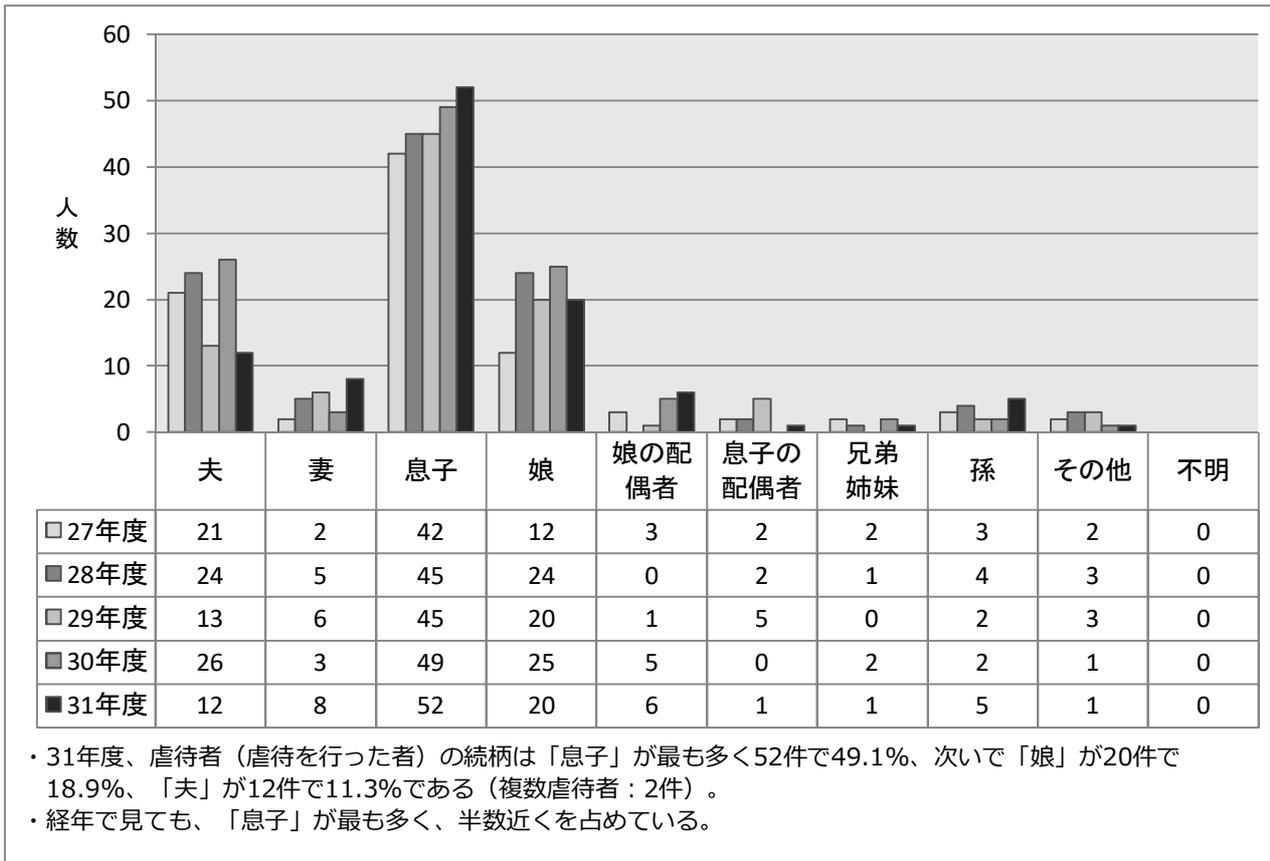
⑬被虐待者を含む世帯構成の内訳

31年度n=104



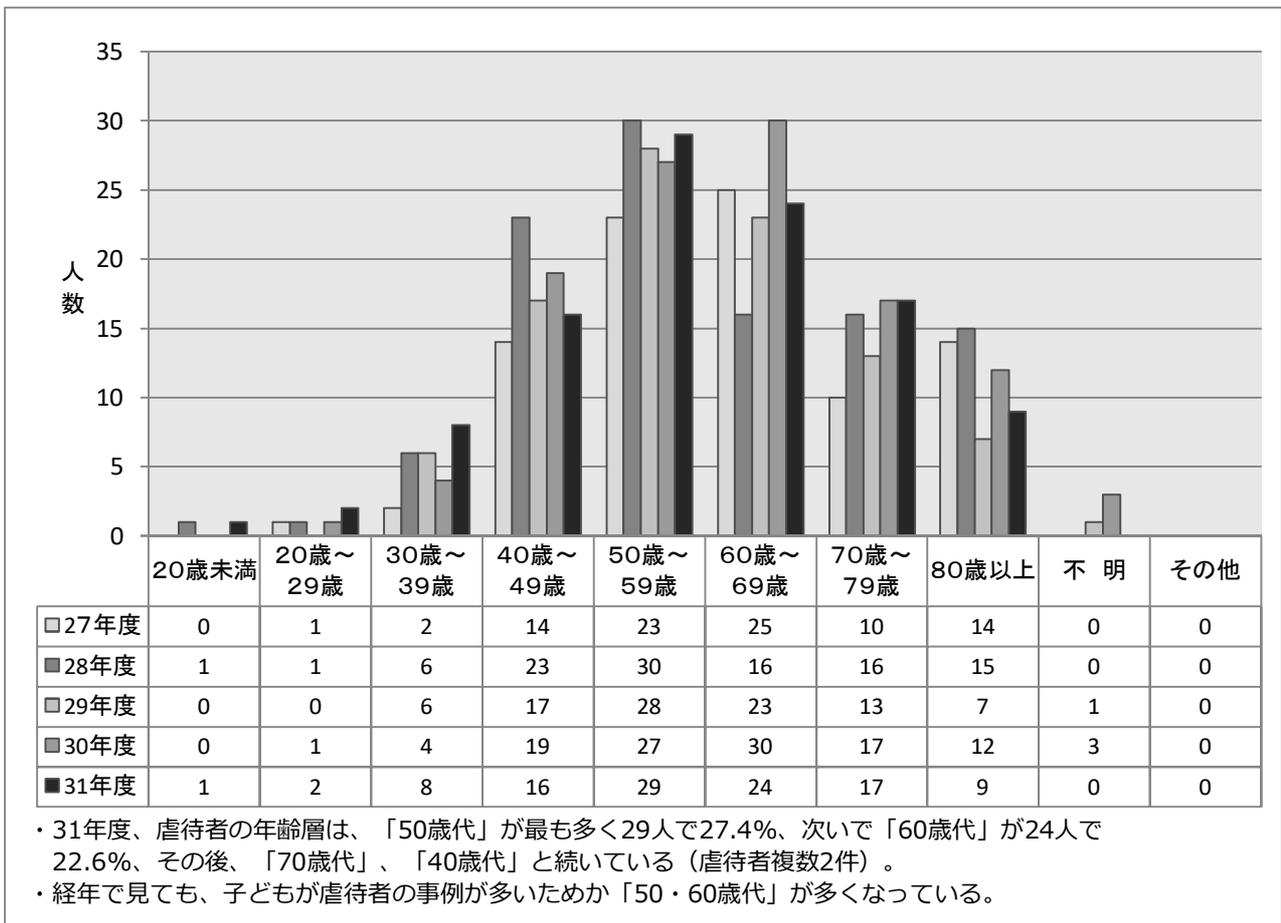
⑭虐待者の続柄(複数回答)

31年度n=106



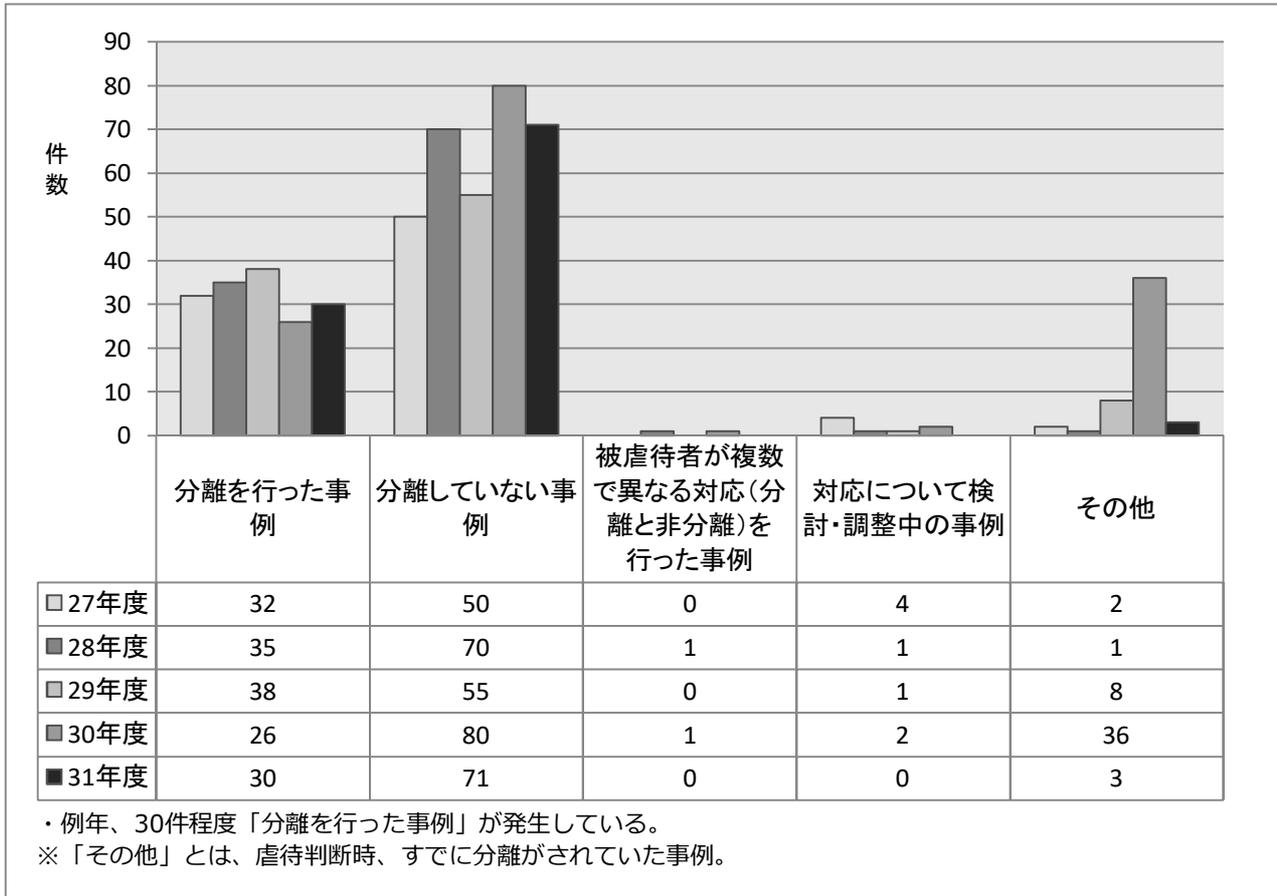
⑮虐待者の年齢

31年度n=106



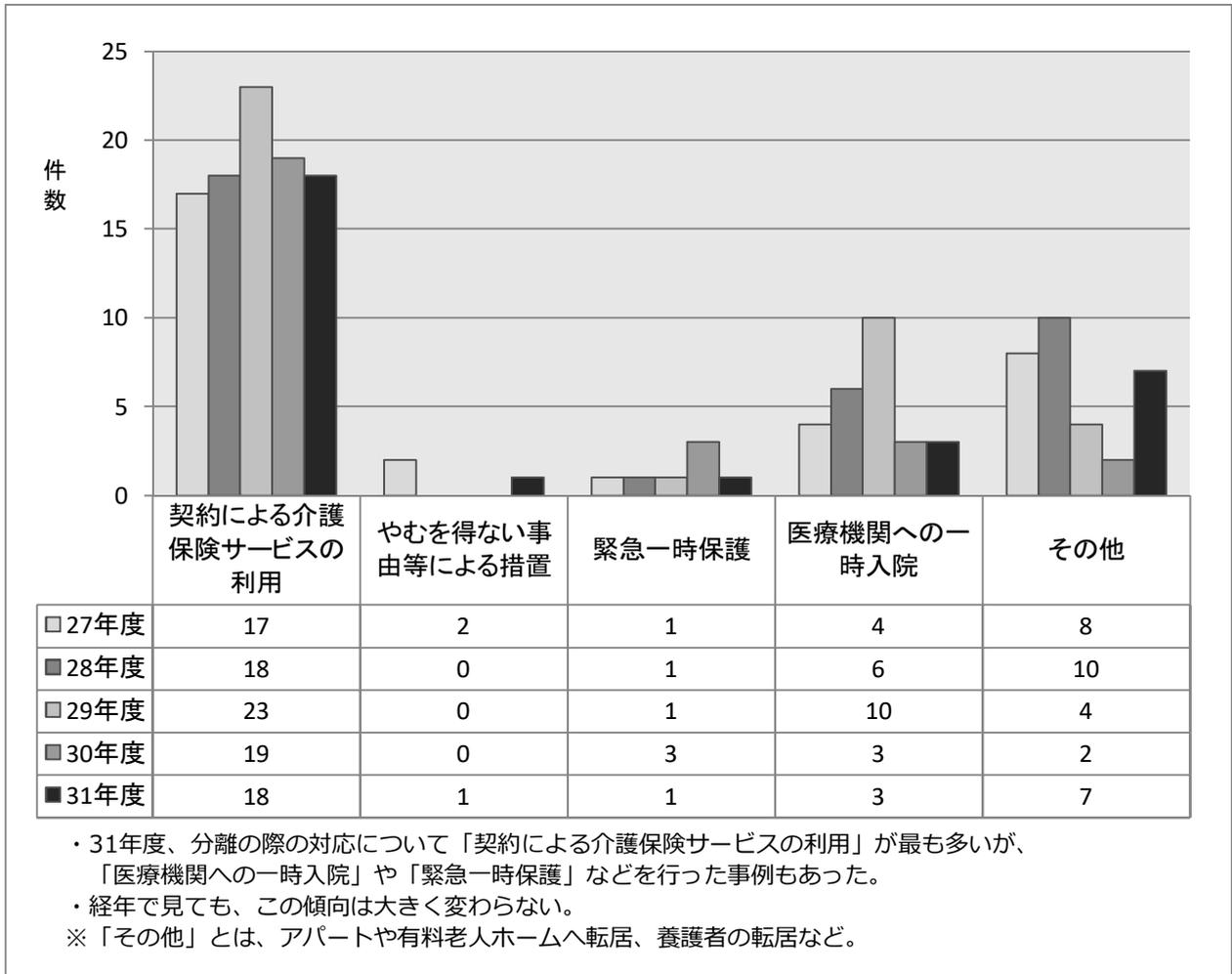
⑩虐待者との分離の有無

31年度n=104



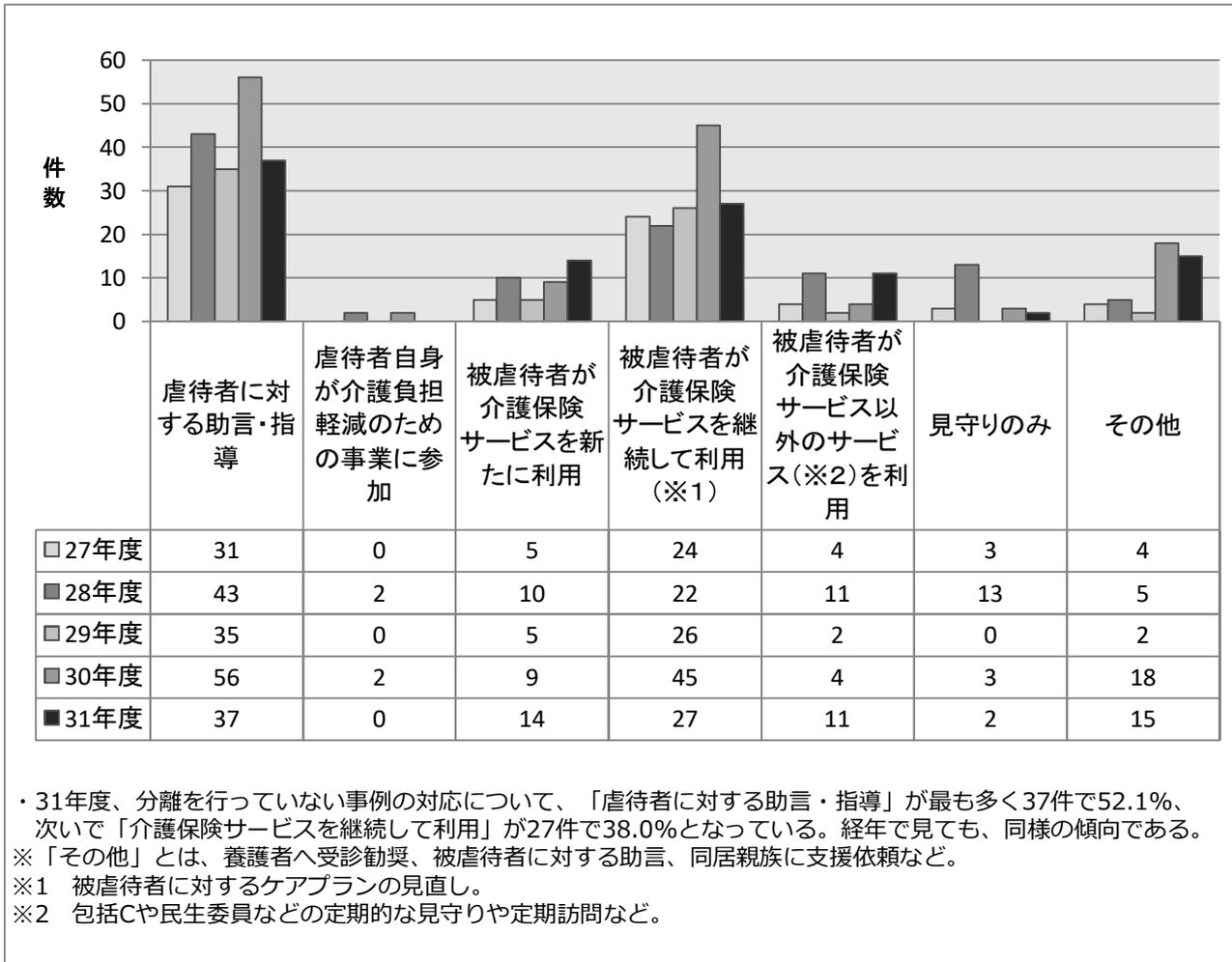
⑪分離を行った事例の対応の内訳

31年度n=30



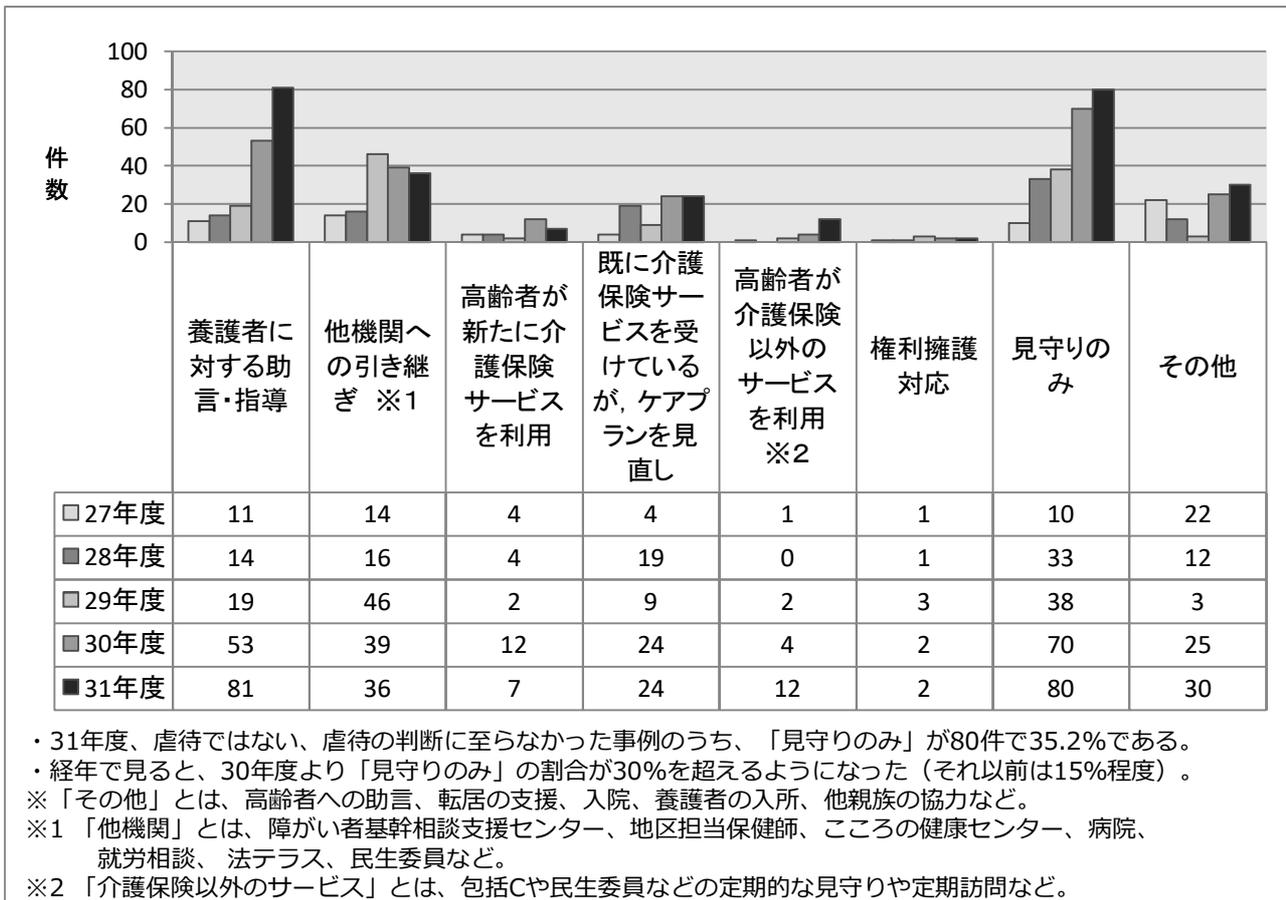
⑱分離していない事例の対応の内訳(「見守りのみ」を除き複数回答)

31年度n=71



⑲虐待ではない又は虐待の判断に至らなかった事例の対応の内訳(見守りのみを除き複数回答)

31年度n=227



⑳権利擁護に関する対応

